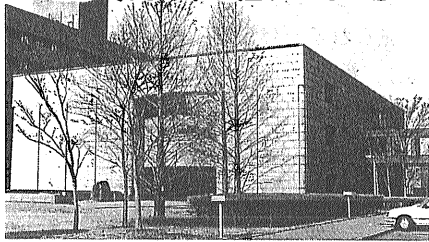


地質標本館だより



No.51

地質標本館の大改装

開館以来初めて経験する大規模な標本館の改装工事が完了し、新年度から新しい展示が公開の運びとなりました。以下にその内容をご紹介します。

1. 1階ホール天井

天井に示された日本列島地下の三次元震源分布の様子は、これまでも来館者の目を奪い、標本館の目玉のひとつでした。反面、どれが著名地震の震源なのかが分かりにくいとの声が多く聞かれました。この不満を解消するために、江戸時代以降、未だ記憶に生々しい阪神淡路大震災に至る巨大被害地震の震源を検索できるようにしました。天井には33の被害地震が赤色のランプで表示されています(写真1)。ホール中央の地球儀に組み込まれたモニター(写真2)から「被害地震の情報検索」を選択すれば、目的の地震の震源が点滅してその位置を知らせてくれます。

標本館にとって展示の改修・更新は常に望まれるところですが、願わくば、これらの赤ランプだけは増設される日の来ないことを祈りたいものです。

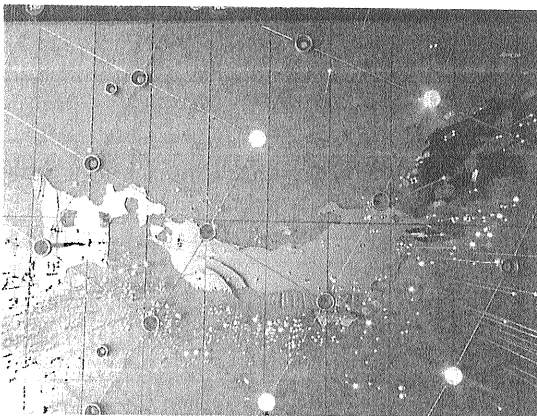


写真1 巨大被害地震の震源分布。



写真2 被害地震の検索用モニター。

同じモニターから「地球を知ろう」を選べば、地球の姿に触れることもできます。

2. 大型液晶ディスプレイ

第4展示室入口横のホール壁面に4機の大型画面を設置し、これまでの「電視ナマズ」の映像を移しました。世界、日本および関東地方のリアルタイムの地震分布をより鮮明に見ることができます。残る一面には地質標本館の紹介が表示され、内容は随時更新される予定になっています(写真3)。

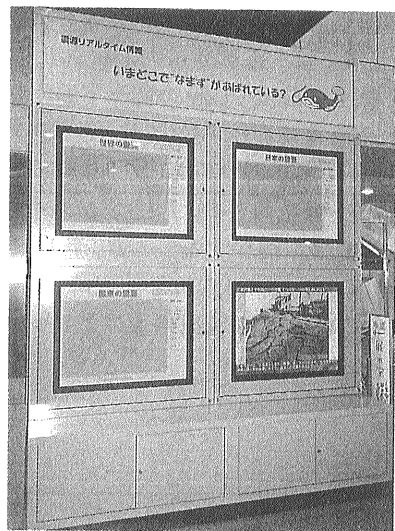


写真3 液晶パネルになった電視ナマズ。

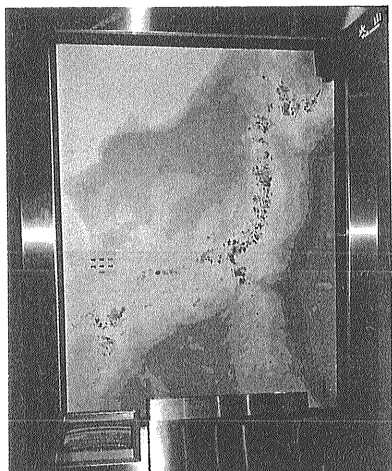


写真4 改装された「日本の火山」.

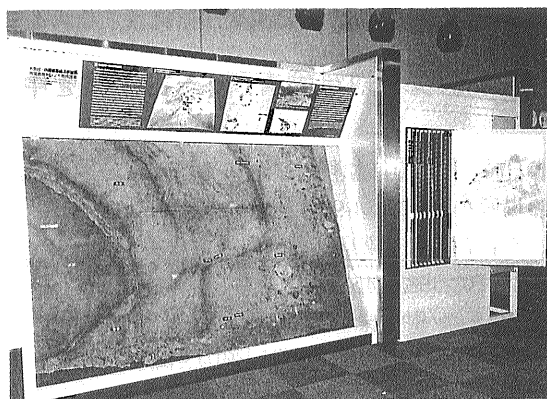


写真6 神城断層剥ぎ取り標本と日本列島活構造図収納ケース(右端).

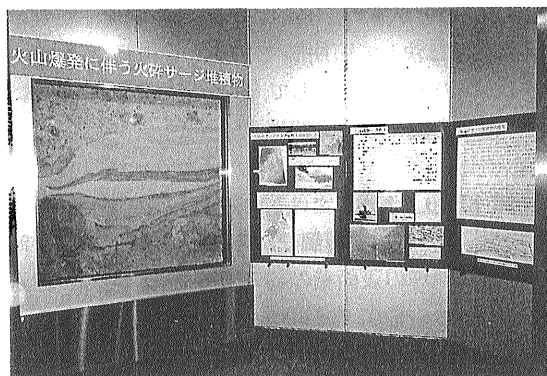


写真5 磐梯火山の火砕サージ堆積物とその解説.



写真7 活断層と地震のコーナー.

3. 第3展示室

傷みの激しかった「富士・箱根火山の地質立体模型」と「日本の火山と温泉」の分布図が一新されました。前者では、地質図の塗直しに加えて東名高速道や東海道新幹線の路線図を入れ、主要な地名も表示されて位置関係がわかり易くなっています。後者では、代表的な13の活火山の映像と説明が、左手前の画面で見られるようになりました(写真4)。

「ダイナミック・アース」映像室の入口左側には「磐梯山火砕流堆積層の剥ぎ取り標本」とその解説(標本館だよりNo.48で紹介)を固定展示し(写真5)、出口側には「活断層と地震」のコーナーを新設しました。

ここでは、フォッサ・マグナの一部の「神城断層の剥ぎ取り標本」(写真6)や兵庫県南部地震の元凶とされる野島断層の調査結果、岩盤破壊実験が

明かす地震発生のメカニズムなど、地質調査所が行った調査研究の成果を映像とパネルで展示・解説しています(写真7)。

また、このコーナーには地質調査所が発行する活構造図(50万分の1)や主な断層のストリップ・マップが置かれ(写真6の右端)、自由に閲覧することができます。

4. 映像室と多目的室

映像設備の老朽化に伴い、映像室を大幅に改装して余裕のある座席配置を実現しました。同時に各種の最新映像機器を導入することで、機能的で鮮明な映像を提供できるようになりました。

また、コインロッカー奥の1階研究室を全面的に改修し、企画展示やセミナー(50人前後)に利用可能な多目的展示室を新設しました。

(遠藤祐二・豊 遙秋)